

チー ム 音 戸

音戸中学校区
小中一貫教育推進協議会

7月の西日本豪雨災害の影響を受けながらも、児童生徒は、学びに前向きに取り組み、心の面でも強く大きく成長することができました。さて、今年度も音戸中学校区の3小中学校(音戸小学校、波多見小学校、音戸中学校)は「チーム」として協働し、広島県「学びの変革」を踏まえた取組を進めてきました。

3学期の取組

研究授業(波多見小学校・国語科)

第3回小中合同授業研究会を、2月5日(火)に波多見小学校で行いました。5年生の国語科「『大造じいさんとがん』の朗読CDをつくろう」の授業でしたが、叙述に着目して登場人物の心情を読み取り、グループの友達と話し合ったり、全体で交流したりして、活発に学習する姿がすばらしかったです。参観後、3つの小中学校の教職員で研究協議を行いました。これからのそれぞれの学校での実践に活かしていきたいと思います。



情景描写からも、登場人物の心情を読み取っていききました。



音戸中学校区で育てたい「資質・能力」が育ったか、視点を決めて授業後の協議会を行いました。

中学1年生、「母校へ里帰り」

音戸中学校の1年生が、2月21日(木)5・6校時に音戸小学校と波多見小学校に里帰りをしました。そして、5年生に対して、中学校生活について「①音戸中学校の1日」「②授業(教科)」「③部活動」「④学校行事」「⑤中学生になるために」という各コーナーに分かれ、自信を持ってわかりやすく説明しました。グループでの自分の役割を責任を持って果たし、協力して発表することができました。発表を聞いている5年生は、この時期から中学校進学に向けて、心の準備をするよい機会となったようでした。また、中学生の発表の仕方等から、たくさんの「学び」があったことと思います。



中学校は小学校と違うところがあるんだな。

今年度の小中一貫教育の取組をふり返って

- 音戸中学校区で育成する「資質・能力」(課題を設定する力・情報を収集する力・思考表現する力・協働的に関わる力・自己を理解し、生き方を考える力・地域の一員として関わる力)について共通理解を図り、向上を目指した取組を進めることができました。
- 生徒指導や基本的生活習慣について、3校で意見交流や情報交換をしながら取組を進めることができました。
- ☆ 次年度も、引き続き3校で連携を図りながら、「資質・能力」の向上を目指し、「確かな学力・豊かな心・健やかな体」の面での取組を推進していきます。